

# 「総理に聞く」

NHK・3月15日のTV

「総理に聞く」の番組で、総理自身が幾度も繰り返し来漢字の誤読について弁明を行いました。「ばつと見るものだから間違える。もう少し原稿に目を落とすようにしないといかん」というのは反省としてある」と、誤読

## 器を知る

ど、私にはとても考えられない。そもそも日本語の熟語を知らないのです。しかも、読めないと言うことは意味も知らないことの証明です。

これは、自ら書かず人任せ、事前に良く読み込んでいないし、官僚の作文を国会でなぞるから、教養のなさ、マンガもロクに読みこなしていない、B級国民の代表と言われるのです。確かにスーツはTVでも立派に見えます。人は見た目が99%だと良く知っておいてます。

その程度の国会先生の面倒を見なければいけない「霞ヶ関」は苦勞が絶えない。「国策捜査」も官僚主導ですが、実質支配する官僚の僕（しもべ）は、見事なほど無能で無責任な「総理」です。

です。自民党の推薦総理です。私たちの命と生活を託すに足るとは到底思えません。自ら人間の小ささを語ったもので、ばつとみても読み違えるなど、私にはとても考えられない。そもそも日本語の熟語を知らないのです。しかも、読めないと言うことは意味も知らないことの証明です。



米国の「力の論理」は、自らの決定こそ正義であるという傲慢さを持つ。その

傲慢さは、イラクに大量破壊兵器があると嘘をつき、イラクに侵攻し、フセインを葬ったブッシュ政権に見て取れる。さらに、ブッシュ政権は、先制攻撃を認める軍事ドクトリ

## 暴力は正義?

ンを発表し、各国の国家主権である自衛権を否定した。また、米国は、「法の支配」を言いながら、京都議定書、国際司法裁判所法を批准せず、また、ABM（弾道迎撃ミサイル）制限条約を破棄し

武士道の誠の精神に反する。米国の「力の論理」と「資本の論理」を抑制できるのは、私を捨て、公に尽くす武士道の倫理規範であり、金銭よりも名誉を大事にする価値観である。繰り返しになるが、米国は、民主主義、個人の自由、市場原理、人権主義などのイデオロギーを盾にし、「私」たる国益のために、他国に米國流儀を押し付ける。そのような米国の傲慢さを見て、何もしないのは、「義を見て、せざるは、勇無きなり」の武士道精神に反する。

(世田谷通信より)

私は時々ではなく最近、「ハラハラ」があつた気がしています。胸ときめく「ドキドキ」感の記憶が殆どない事に、気がつきまし

た。なぜなのでしょう。自分でも正確に把握できません。老衰? 胸を熱くする思いが懐かしいこの頃です。最近劇場で見た映画は「マンマ・ミーヤ」主演女

## ドキドキしていますか

中高年以降の世代に共通した懐かしい思いや、相手を感じ、私の涙腺を多少なりともゆるめました。

有名俳優は、女性も男性も優れています。表現、想像がでこ心を伝えるという事が、本当の役者です。俳優は自分の素を感じさせないものです。悟られない演技が求められるのです。

どこかの役者、麻生はすでに演技指導の「パトロン」と役人から見放されていると見た方が、ここでは正しいでしょう。

(有)西川経営オフィスサービス  
中村会計  
事務所便り  
2009年3月17日(火) NO 34  
地域から明るい未来を作ろう